



衆議院議員 河井克行事務所
自由民主党広島県第三選挙区支部

国会事務所
TEL03-3508-7518
FAX03-3508-3948

広島事務所
TEL082-832-7301
FAX082-878-3301

河井克行公式ホームページ
<http://kawai.fine.to/katsu/>

党総務会副会長に選任

河井克行代議士は、臨時国会冒頭で衆議院外務委員長を退任。10月15日、常設機関としては党の最高意思決定機関である総務会の副会長に選任されました。総務会とは、国会開会中は毎週火曜日と金曜日に開かれ、党人事や法案・予算案の可否といった党の重要方針を最終的に決める会議体です。外交や安全保障にとどまらず、国政の諸課題および党務の全般について幅広く知見を磨く良い機会と考えられます。



今年に入り十三回を数えた沖縄県出張

米海兵隊普天間飛行場の危険性を取り除き、辺野古移設を推進するため、河井克行代議士の精力的な沖縄県通いは続いており、十月だけで三度も沖縄県を訪れました。毎回、さまざまな立場の関係者と丁寧に意見交換を積み重ね、信頼の醸成を図っています。



▲
沖縄県政界・経済界の内情に詳しい小禄邦男・琉球放送最高顧問(8月13日)

新しい外務省沖縄担当大使を披露する催しで、在沖縄米軍最高位のジョン・ウィスラー四軍調整官(海兵隊中將)と話し込む(10月8日)



仲井眞弘多知事の両腕である高良倉吉副知事
と川上好久副知事(8月12日)



“神の島”久高島や世界遺産・斎場御嶽などを
抱える南城市の古謝景春市長と琉球の歴史・
文化について語り合いました(8月12日)



世界最高水準の研究拠点をめざす沖縄科学技術大学院大学(OIST)を高村正彦・党副総裁と視察。
ノーベル賞受賞者らで構成される大学理事らと意見交換(10月2日)



北部地域を代表する経済人、前田裕継・ゆがふ
ホールディングス会長らと(10月29日)



名護市議会保守系会派「礎の会」の宮城弘子市議、
志良堂清則市議(10月29日)

河井克行代議士の度重なる沖縄県入りはメディアの注目を集めています。
8月19日付『読売新聞電子版・今を読む』

「橋本・梶山」を継ぐ2人

政治部 川上修

国会内にある衆院外務委員長室には、年代物の腕時計とネクタイが飾ってある。

河井克行委員長(自民)が「政治の師」と仰ぐ、橋本竜太郎元首相の遺品を形見分けしてもらったものだ。

橋本氏が返還合意にこぎつけた普天間



写真の拡大

橋本氏は沖縄県への思い入れが深く、沖縄に集中する在日米軍基地の問題にも積極的にかかわった。安倍政権の懸案となっている米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の移設は、1996年にクリントン米大統領(当時)との首脳会談で返還合意にこぎ着けたものだ。沖縄の政界OBには、今も橋本氏のことを懐かしく振り返る人が少なくない。

梶山静六在職25年パーティー・祝辞を述べる橋本竜太郎首相(左)と梶山静六官房長官(1998年4月20日、都内ホテルで。肩書きは当時、)

96年秋の衆院選で、自民党総裁・首相だった橋本氏の応援もあって初当選を果たした河井氏にとって、普天間移設問題は「橋本氏の遺志を継ぐライフワーク」となっている。

沖縄に毎月泊まり込んで、名護市辺野古への移設実現に向け、県の要人らと水面下で接触を重ねている。

普天間移設問題のカギを握る菅義偉官房長官も96年初当選で、河井氏とは「同期の桜」。初当選以来の親交に加え、普天間問題ではタッグを組む「盟友」でもある。

「沖縄は私の死に場所」と語った梶山氏

菅氏が、橋本氏とともに、自民党竹下派(現在は額賀派がその系譜を引いている)の「七奉行」と呼ばれた実力者の一人、梶山静六氏を政治の師として仰いでいたことは、よく知られている。橋本政権の官房長官として、梶山氏は「沖縄は私の死に場所」と語り、基地問題にまなじりを決して取り組んだ。

橋本、梶山両氏が手がけた普天間移設問題が、彼らの「弟子」を自任する菅、河井氏の手で再び動き出していることには、どこか因縁めいたものを感じる。

写真の拡大



沖縄の米軍基地問題で会談に入る橋本竜太郎首相(左)と大田昌秀知事(1996年9月10日、首相官邸で。肩書きは当時)

知花花織のネクタイ

対立する利害を調整する政治の世界では、「気遣い」が、行き詰まった局面を打開するきっかけとなることがある。

河井氏は今年2月、橋本氏愛用のキーチェーンを橋本夫人の久美子さんに代わり、橋本政権時代に沖縄県知事を務めた大田昌秀氏に手渡し、昔話に花を咲かせた。

今年4月に菅氏が沖縄を訪れた際にしめていた沖縄伝統工芸の「知花花織」の紫のネクタイも、河井氏が事前に菅氏に手渡したものだ。菅氏は別の柄のネクタイを勧める周囲に対し、「地元のネクタイがいい」と、知花花織のネクタイにこだわったという。河井氏自身も、橋本氏の遺品のネクタイをしめて沖縄を訪れることが、よくあるようだ。



河井克行衆院外務委員長
(5月21日、衆院第1議員
会館で)

「本気で沖縄に寄り添う」姿勢を示し続けること

写真の拡大



米軍普天間飛行場の新型輸送機MV22オスプレイ配備に関する要請書を、沖縄県の仲井真弘多知事(中央)と宜野湾市の佐喜真淳市長(左)から受け取る菅義偉官房長官(7月9日、首相官邸で)

無論、「気遣い」だけで、沖縄の人々の

心がほぐれ、万事がうまく展開するほど、問題は単純ではない。「県外移設」を掲げて沖縄の歓心を買おうとした民主党の鳩山政権の失敗もあり、「世界一危険な場所にある米軍基地」である普天間飛行場を放置しておくことへの県民の不満は爆発寸前だ。8月には米軍ヘリコプター墜落事故が起き、県民の反基地感情は高まっている。

それでも、「本気で沖縄に寄り添おうとしている」姿勢を地道に示し続けるしか、この問題の打開策がないことも事実だろう。嘉手納基地以南の米軍施設・区域の返還計画の前倒しだけでなく、米軍新型輸送機MV22オスプレイの訓練の本土移転など、沖縄県

民全体の気持ちを肌で感じた「気遣い」のある政策を示し続けてこそ、初めて沖縄県民が日本政府の要望に耳を傾ける空気が生まれるのではないだろうか。

ただ、時間は無限大にあるわけではない。沖縄県の仲井真弘多知事は年内にも、辺野古移設に関する埋め立て許可の可否を判断する見通しだ。橋本—梶山コンビの衣鉢を継ぐ河井、菅両氏が、師の成し遂げられなかった夢をかなえられるかどうか、これからが正念場になる。

(2013年8月19日 読売新聞)